

1. 計画概要

1.1 計画の目的

本町には、大小様々な公園が96箇所整備されている。これらの公園は、憩いや遊びの場として親しまれているだけでなく、災害時の避難場所や地域コミュニティの活動拠点としても利用され、地域住民の日常生活を支える重要な役割を果たしている。

しかしながら、多くの公園は供用開始から30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。また、時代の変化に伴う公園に求めるニーズの多様化や、地域ごとに異なる人口減少・高齢化の進展により、公園の利用状況や必要性にも差が生じている。このような背景から、公園の役割や機能を再評価し、再編の方向性を検討することが重要である。

そこで、本計画では、公園ごとの立地や規模、利用状況、周辺環境などの特性を踏まえた調査分析を行い、公園ごとの役割や機能を明確にするとともに、限られた財源の中で公園の魅力を向上させ、町民の憩いと賑わいの場となる公園づくりを目指し、本計画を策定する。

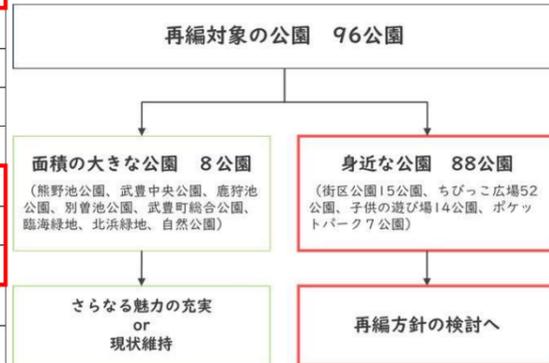
1.2 分析に向けて

本計画では、本町の全公園を再編対象とするものの、都市公園の中でも面積の大きい近隣公園以上の都市公園については、多くの人に利用されていることから、現状維持またはさらなる魅力の充実に努めるものとする。

一方で、公園数の多い街区公園やちびっこ広場等面積の小さい公園において、施設の重複や施設の老朽化が顕著であり、各公園の在り方を見直す必要があると町は考えている。

そこで、町民の生活の中で最も身近に配置されている街区公園およびちびっこ広場、子供の遊び場、ポケットパークを“身近な公園”と定義し、次章以降では身近な公園についての調査分析、再編方針の検討を行った。

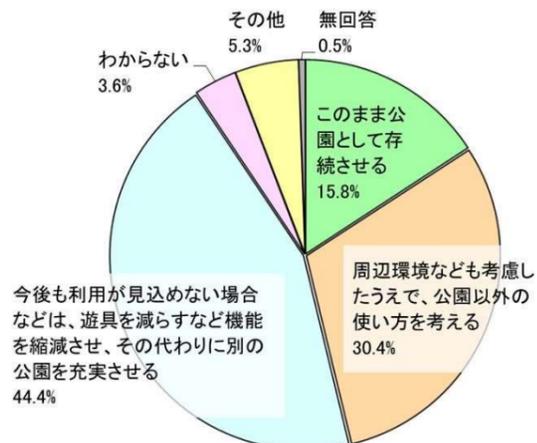
公園の種類	公園数	面積	遊戯施設数
都市公園	22公園	245,301㎡	82施設
街区公園	15公園	43,256㎡	65施設
近隣公園	2公園	51,000㎡	5施設
地区公園	1公園	43,019㎡	8施設
総合公園/都市緑地	4公園	108,026㎡	4施設
その他公園	74公園	286,312㎡	123施設
ちびっこ広場	52公園	27,057㎡	90施設
子供の遊び場	14公園	15,544㎡	27施設
ポケットパーク	7公園	3,711㎡	0施設
自然公園	1公園	240,000㎡	6施設
計	96公園	531,613㎡	205施設



2. 利用実態調査

身近な公園の利用実態およびニーズを把握するため、エリアを小学校区ごととし、町民アンケート調査を実施した。アンケートの結果（抜粋）は以下のとおりである。

Q. あまり利用されていない小さな公園の管理方針について、賛同する選択肢を教えてください。



利用率の低い公園に関しては、機能や用途について効率的な活用が求められている傾向にあることが分かる。

3. 身近な公園の評価分析

身近な公園の現況評価を行うため、公園単体の機能に着目した「現況タイプ評価」と周辺環境や利用状況に着目した「利用環境評価」の2つの観点から評価指標を設定した。

(1) 現況タイプ評価

現況タイプ評価をする上で、公園面積、遊戯施設数、東屋やパーゴラ等休憩施設の設置状況をもとに公園を以下のタイプに分類した。

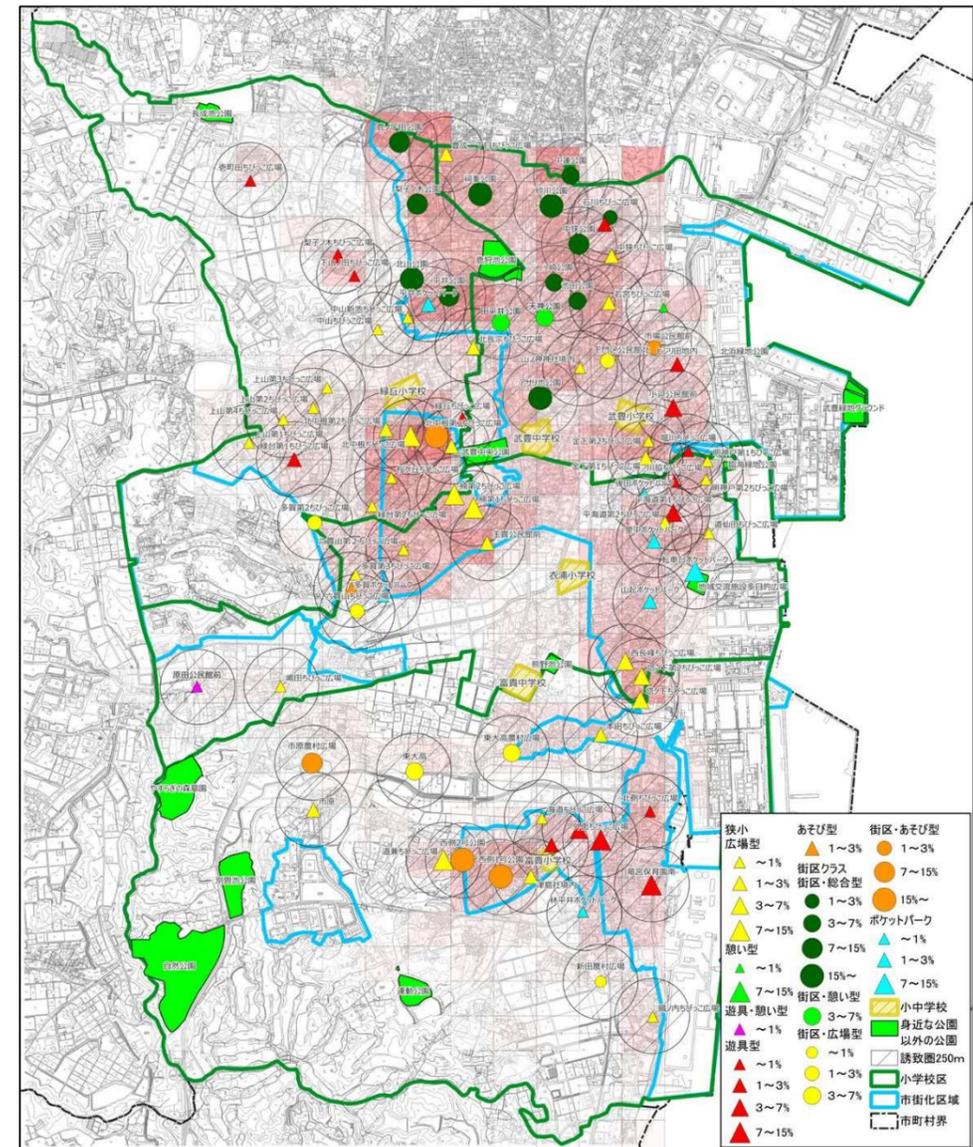
- ①遊具型…遊戯施設が3種類以上ある公園
- ②広場型…遊戯施設が3種類未満の公園
- ③あそび型…遊戯施設が3種類以上あり、遊具広場と独立して広場がある公園
- ④憩い型…東屋やパーゴラ等日よけ空間がある公園
- ⑤総合型…あそび型+憩い型
- ⑥ポケットパーク…あそび空間のないポケットパーク

現況タイプ	公園数
街区クラス (1,000㎡以上)	25公園
広場型	6公園
あそび型	4公園
憩い型	2公園
遊具・憩い型	1公園
総合型	12公園
狭小クラス (1,000㎡未満)	59公園
遊具型	16公園
広場型	39公園
あそび型	1公園
憩い型	2公園
遊具・憩い型	1公園
ポケットパーク	4公園

また、面積1,000㎡以上の公園を「街区クラス」、1,000㎡未満の公園を「狭小クラス」と定義した。

(2) 利用環境評価

利用環境評価をするにあたり、公園誘致圏内の人口、まちづくりとの整合性、利用率をもとに評価を実施した。



【身近な公園現況分析結果】

